天皇誕生日祝賀レセプションの開催
2018年11月15日

2018年11月15日，天皇誕生日祝賀レセプションを大使公邸にて開催しました。ムッサ情報・通信技術大臣を主賓に迎え，マラウイ政府関係者，外交団，国際機関，企業，NGO等各界関係者が参加し，寿司・天ぷら・焼き鳥等の和食を楽しんで頂きました。焼き鳥は，JICAが支援するザラニヤマ森林保護区でのプロジェクト試作中の炭を使用して調理しました。

また，日系企業，日本のNGO，JICAがブースにてそれぞれ展示を行いました。開会式での国歌斉唱は，青年海外協力隊の教え子によるマラウイ国歌合唱及び日本国歌演奏の様子を撮影した動画を流しました。

大使のスピーチ要約

（1）冒頭

天皇陛下の85歳の誕生日祝賀レセプションにお越し頂き感謝申し上げる。また，本年は，日本で豪雨，地震，台風など自然災害が相次いだが，ムタリカ大統領からのお悔やみの言葉を含め，皆様からの支援と弔意に感謝申し上げる。各地は驚くべき速さで復興し，外国からの観光客を歓迎する準備ができているため，ぜひ皆様の今後の訪問先として，日本を選んでいただきたい。

（2）日マラウイ関係

大使館設立10周年を迎えた本年，1971年より開始した青年海外協力隊の派遣数が1800名を超えた（累計派遣数世界一）。マラウイで活動したボランティアはいつまでもマラウイに良い思い出を持っている。また，留学生及びJICAの研修参加人数は3000名を超えた。今年3月に，帰国留学・研修生の合同同窓会を初めて実施したが，マラウイ人が新しい考えをよく吸収することを喜ばしく思った。また，カムズ国際空港の拡張計画が進んでおり，20年ぶりのレーダー機器の導入や航空管制官の育成も行っている。さらに，今年9月に実施した第5回大使杯柔道選手権大会では，初めてザレカ難民キャンプの選手が参加した。

（3）天皇陛下の御退位と皇太子殿下の御即位

来年4月30日に天皇陛下が御退位され，翌日に皇太子殿下が御即位される。2016年に天皇陛下は国民に宛てたビデオメッセージでご自身の健康に触れ，日本国と国民の象徴としての天皇の務めは国民の安寧と幸せを願うことであるというお考えを述べられた。陛下が国民と苦楽をともにされたことを日本国民は理解しており，来年5月以降，今上天皇皇后両陛下が平和で穏やかな日々を過ごされることを願っている。

（4）TICAD7

TICAD7が開催される2019年は，日本とアフリカにとって非常に重要な年となる。近年は経済変革をもたらす民間部門の関与が重視され，当館も対マラウイ投資をさらに促進させるため，日本企業への働きかけを行っているところ。

（5）2019年総選挙

2019年は総選挙が実施されるため，マラウイにとっても重要な年と言える。平和で，自由で，公平で，透明性のある選挙が実施されることを改めて呼びかけたい。選挙の成功は，全政党，メディア，選挙委員会，そして有権者を含む全ての関係者がそれぞれの責任を果たすことにかかっていると考える。

開発パートナーとして，今年施行された第三次マラウイ成長開発戦略（MGDSⅢ）及び各種開発政策が選挙後も維持され政策の継続性が担保されることを願う。各政党がマニフェストの中にこれら政策をどう実施するかを含めることを願う。

また女性として，女性のさらなる政治参加にも期待。この点，日本はマラウイよりも遅れをとっており，女性のリーダーを輩出する重要性については深く理解している。全政党に女性候補者の支援を強く呼びかけたい。

（6）結語

日系企業ブースに参加してくれた企業に感謝。本年の国歌斉唱は，青年海外協力隊員に指導を受けたマラウイ人生徒による合唱及び演奏の映像を流す。また，ザラニヤマ森林保護区で試験的に製造されている「合法で持続可能な炭」を本日提供する焼き鳥の調理に使用している。さらに，本日提供する水は，「Cool drop」というブランドで，ペットボトル1本につき50タンバラ（1クワチャ＝100タンバラ）がザラニヤマ森林保護区の保全に寄付されるという取り組みを行っている。

ムタリカ大統領の益々のご健康とマラウイの平和と繁栄，そして日マラウイのさらなる友好関係を願って乾杯としたい。

平成30年度天皇誕生日祝賀レセプション（在マラウイ大使館）



レシービングラインでゲストを迎える
柳沢大使



レシービングラインでの記念撮影
柳沢大使と主賓のムッサ情報・通信技術大臣



中央ステージの様子
JICA隊員の教え子が国歌斉唱する様子を撮影した動画を流した



日系企業ブースを回る柳沢大使と主賓のムッサ大臣



柳沢大使によるスピーチ



メディアインタビューを受ける柳沢大使

平成30年度天皇誕生日祝賀レセプション（在マラウイ大使館）



野中公邸料理人による
焼き鳥・天ぷらの実演



お寿司コーナー



着物の大使・浴衣の館員/現地職員
チテンジ（現地の生地）で作成した浴衣も着用した